

ホタテガイ地場採苗の不振要因の解明とその対策	
ねらい:	ホタテガイ地場採苗において、2～3年に1度発生する採苗不振について、原因と対策を検討し、安定生産技術を確立する。
成果の特徴:	稚貝の付着は5月下旬頃にピークを迎えるのが、6月下旬以降に遅れた場合に採苗不振は顕著である。これは、採苗器の投入と稚貝の付着の時期とのずれが要因であると考えられた。 対策としては、採苗器の適期投入が重要であり、その適期の推定には試験採苗器による付着稚貝調査の実施が最も有効であることを確認した。
成果の活用面:	有効な調査体制を平成13年に確立し、地場採苗の安定化が図られた。

[具体的データ]

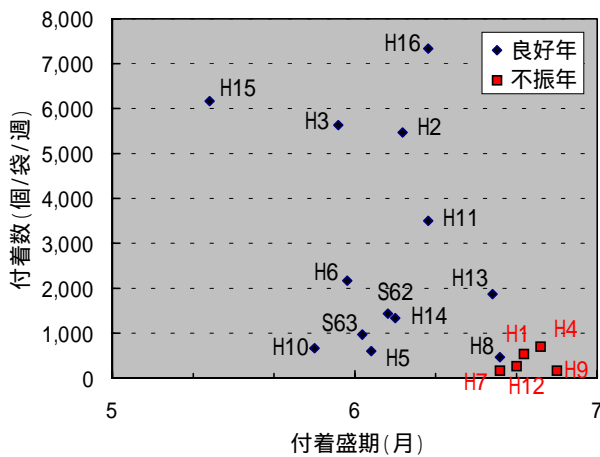


図1 付着盛期と付着稚貝数の関係

採苗不振年は、稚貝の付着盛期が6月後半以降となり、その他の年に比べて1ヶ月程度遅れた場合に顕著である。

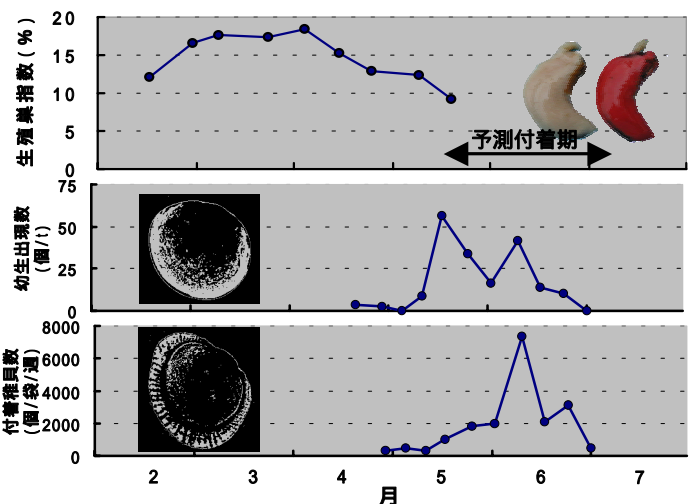


図2 生殖巣指数、浮遊幼生出現数および付着稚貝数の変化

従来の生殖巣調査やラーバ調査に加え、試験採苗器による付着稚貝調査を行うことにより、産卵状況、幼生の発生に加えて稚貝の付着状況を実際に把握することができ、採苗器投入時期決定の精度が向上する。

担当者	増養殖部 主任専門研究員 野呂 忠勝 0193-26-7917 FAX0193-26-7920
連絡先	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田第3地割75番3号
	ホームページ http://www.pref.iwate.jp/~hp5507/